

茶室覚書

宋旦 京都 表千家 1608
平三畳台目 ふしんあん

不審菴

外観：柿葺切妻造り。前面に庇を付け、深い土間庇とする。
床柱：赤松皮付 径二寸八分 相手柱：档丸太
床框：入節の北山杉丸太。
(千家流の定石)
中柱：まっすぐな赤松 三つの天井の重なる交点。
壁止の横竹はは四節。
天井：床側 蒲天井。手前座 化粧屋根（西流れ）。
躰口側 化粧屋根（南流れ） 突上窓をあける。

- ・もとは利休が大徳寺前大阪屋敷の四畳半に不審菴の額をあげていた。現在は平三畳台目で席名とともに表千家全体の総称
- ・茶室は南面して建つ 躰口の正面に床、床脇に給仕口。
- ・茶道口は手前座の風炉先。開きの太鼓襖（釣襖）そのため点前座勝手手に五寸の板置（脇板）を入れている。
- ・点前座は台目切 二重の仕付棚。二方に高さ一尺四寸五分の腰板。南側高い壁面に下地窓をあける。

